

第 10 回ひろしま建築文化賞が決定

本表彰は、一般社団法人広島県建築士事務所協会が平成9年から実施し、今回で10回目を迎えました。

優れた建築物として成果を上げた建築士事務所を表彰することで広島県内の魅力ある建築とまちづくりに貢献することを目的としています。

今回の応募作品数は一般建築等作品部門16作品、住宅作品部門3作品、建築再生部門2作品の合計21作品でした。

コロナ禍の影響のため、2月17日と9月1日に現地審査を行いました。その結果を踏まえて9月29日の第2回審査会において各賞を決定しましたので、以下にご紹介します。



現地審査風景

【第 10 回ひろしま建築文化賞審査委員会委員】

委員長	岡河 貢	広島大学大学院工学研究院特任教授
委員	細田みぎわ	広島女学院大学人間生活学部生活デザイン・建築学科教授
委員	福田 浩子	広島県立美術館学芸課長
委員	桜井 邦彦	中国新聞社文化部記者
委員	衣笠 准一	一般社団法人広島県建築士事務所協会会長

【第 10 回ひろしま建築文化賞受賞作品】

賞 名	作 品 名	建築士事務所名
大 賞	kissa	原井隆建築設計事務所
優秀賞	瀬戸見の家	(株)小松隼人建築設計事務所
優秀賞	福山通運小丸賑わいパヴィリオン	山根木材ホーム(株)一級建築士事務所
優秀賞	TOTO宮島おもてなしトイレ	(株)あい設計
入 選	萩原の小さな事務所	(株)T.N.A 二級建築士事務所
入 選	CHRONOS DWELL	藤森雅彦一級建築士事務所
入 選	真行寺本堂	(有)立石建築設計
入 選	海風の家	(株)プレゼントデザイン一級建築士事務所

《第 10 回ひろしま建築文化賞受賞作品》

【大賞】 k i s s a (建築再生部門)



[施設概要]

- 建 設 地 : 三次市吉舎町
- 用 途 : 飲食店
- 構造規模 : 木造 2 階建て
- 延床面積 : 73.8 m² (改造部分)
- 建 築 主 : 個人
- 設 計 者 : 原井隆建築設計事務所
- 施 工 者 : みつもり建築



[推薦理由]

この作品は古民家の再生という意味では近年幾つかの場所で古い民家を改装して住宅として新しい設備とともに現代的な感覚のインテリアを伝統的な日本の木造の構造のなかに組み込むことで、古くて新しい現代生活を実現しているような建築の部類に入るという意味では特筆されるべき建築的問題を提示しているわけではない。

商業建築として古民家を再生しておしゃれなレストランやカフェとして利用したりするという意味でも特筆されるものではない。

しかしこの住宅は商業建築として古民家再生のオシャレが商品空間として経済的に利潤を生むようになるような観光地ではなく、山陰と山陽を結ぶ江戸時代の旧銀山街道のなかに取り残されたように古民家が空き家のままで、街道の町並みが人口減少によって廃れたまま残っている場所での建築の試みとして実現していることに意味が有る。

この地域で生まれた若い夫婦が仕事としてここで喫茶店を営んでいる。古民家も予算内の改装しかできていないから未完のままであることが現代における地域の生活文化としての古民家の再生の商業的活性化ではなく、これからの日本の過疎地域での建築文化として広がり可能性を示すものとして評価される。

【優秀賞】 瀬戸見の家（住宅部門）

〔施設概要〕

- 建設地： 呉市
- 用途： 専用住宅
- 構造規模： 木造 2 階建て
- 延床面積： 130.53 m²
- 建築主： 個人
- 設計者： (株)小松隼人建築設計事務所
- 施工者： (株)マリモハウス



撮影者: 矢野紀行

【推薦理由】

呉市西側に位置する傾斜地に建つ。敷地の大半が急勾配の中、残されたわずかな緩勾配の部分に建つ木造 2 階建ての住宅である。地盤の掘削量を最小限に抑えて、敷地形状に合わせてスキップフロアとし、個室とパブリックスペースが階段を挟んで立体的に構成されている。

上階の LDK は、瀬戸内海を見渡すことができる眺望の良さを活かし、大きく開口部が設けられている。大半を占める崖地が、隣地とは切り離され樹木に囲まれた環境をつくっている。キッチンで作業しながらもこの風景を臨むことができ、最上階のアウトドアリビングは、気持ちの良い空間である。

西日を遮断すると同時に耐力壁である西側の壁は、室内ではTV置き場や収納をつくりだしている。また、キッチンの横に水廻りを配置し、家事動線は比較的コンパクトに計画されており、生活空間としても考慮されている。

大雨や強風による軒天の木部のダメージは、想定していたよりも大きいとのことだが、メンテナンスで補っていくとよいと思う。例えば、樹木の成長で木陰をつくる、「はなれ」をつくるなど、今後、大半を占める崖地がこの空間での生活に活かされるとさらにより居場所になると感じた。

【優秀賞】 福山通運小丸賑わいパヴィリオン（一般建築部門）

〔施設概要〕

- 建設地：東広島市鏡山(広島大学西条キャンパス内)
- 用途：福利施設
- 構造規模：木造平屋建て
- 延床面積：171.93 m²
- 建築主：福山通運(株)
(公財)渋谷育英会
- 設計者：山根木材ホーム(株)一級建築士事務所
- 施工者：山根木材ホーム(株)



撮影者:山重雄詩

【推薦理由】

広島大学のキャンパスの入り口近くに建つ木造建築が、周囲の研究棟群と違った趣で異彩を放つ。内部は、シンプルな設計だが、通りに面した壁面がガラス張りで、行き交う学生たちからも中の様子がうかがえる。

異業種交流、イベント開催、起業研究会など、幅広い利用を見込んでいるという。新型コロナウイルスの感染拡大の中、本領をまだ発揮できていないのが残念ではあるがこの建築物は学生や教職員の創意工夫で、育てていける可能性を帯びている。学生たちが時には真剣に語り合い、時には鉄板でお好み焼きを作りながらワイワイと交流する一。そんな静と動の両面から、未来への想像力をかき立ててくれる建築物だ。

広島県産の木材がふんだんに使われ、木の香りがまた、時間を忘れさせてくれるほど心を落ち着かせてくれる。和の空間に身を置き、留学生を交えた国際交流の場としても役立ちそうだ。トラックを横付けしての荷物の搬入など、使い勝手もよく考えられている。屋内に置かれた机や椅子も、国産材で造られ、「メイド・イン・ジャパン」の空気感がより一層高められている。造りで注文があるとすれば、トイレが車いすで入りづらい点だろうか。

発展が進む大学周辺はそもそも、緑が豊かな田園だった。高い位置から見下ろすと、緑豊かなキャンパスと、周囲の自然の中にこの建物が違和感なく溶け込んでいる。さらに、北側への増床が可能な設計でもあり、学生たちのアイデアでどんどん育てていってほしい。

建築物としての企画、設計、施工に優れ、学習・交流の場としての大学キャンパスにふさわしい。「建築士事務所憲章」に照らしても、「快適な生活環境の創造」がなされている。建築を志す若き学生たちにも、夢を与えられるのではなかろうか。

【優秀賞】 TOTO 宮島おもてなしトイレ（一般建築部門）

〔施設概要〕

- 建設地： 廿日市市宮島町
- 用途： 公衆便所、観光案内所
- 構造規模： 木造2階建て
- 延床面積： 509.87 m²
- 建築主： 廿日市市
- 設計者： ㈱あい設計
- 施工者： ㈱増岡組



【推薦理由】

宮島を訪れる国内外からの観光客は近年増加してきたがこの地域の公衆トイレは室数が不足してトイレ待ちの行列が多発しており、また、観光案内所の機能改善が求められていた。このような状態を改善するために、宮島栈橋と厳島神社の中間地点に廿日市市とトイレ機器企業の協働による事業であったことが特徴のひとつとなっている。2階は観光案内所と休憩スペース、1階におもてなしトイレが置かれている。此处に建っていた木造建築の建具を2階外壁に再利用することで木造の伝統をさりげなく継承しており、サイン計画がさらに老若男女・国籍的に多様な訪問者へのわかりやすさがあれば国際的観光地のおもてなし施設としてより評価されただろう。

【入選】 萩原の小さな事務所（一般建築部門）

〔施設概要〕

- 建設地：安芸郡熊野町
- 用途：事務所
- 構造規模：木造平屋建て
- 延床面積：49.17 m²
- 建築主：個人
- 設計者：(株)T. N. A
二級建築士事務所
- 施工者：くるみハウジング(株)



©Nacasa&Partners Inc. FUTA Moriishi

【推薦理由】

地域の文化は人間尺度で造られた理想的かつコンパクトな空間に現れ、その地域の質の高い日常の生活空間（歴史と後世への教育・文化・芸術）の実現であると考ええる。

周囲は熊野町の古い住宅が建ち並ぶ環境にある。狭隘な敷地に新築した小さな事務所、既存の隣接する母屋の日本家屋、カーポートで配置構成されている。小さな事務所の存在を意図的に判りにくくしているが、知る人ぞ知る設計意図が理解できる。外部動線は事務所への床面仕上げの変化で動線の判りにくさを払拭している。

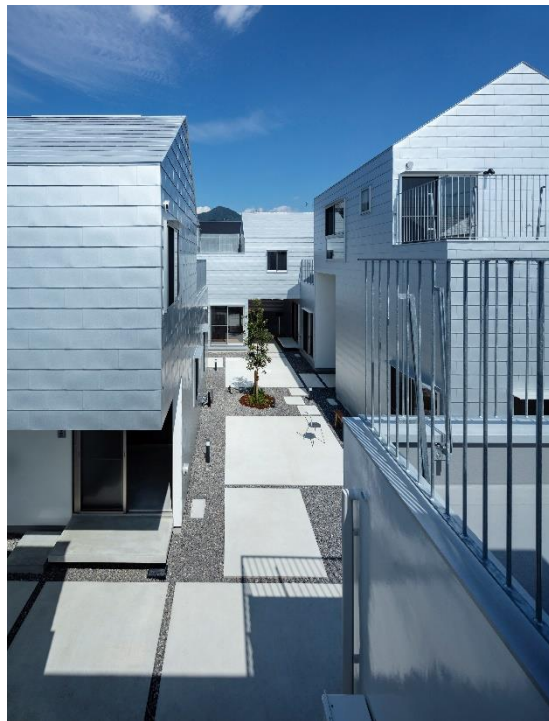
さらに外構の仕様に地域の歴史・文化の存在を継承されるものが敷設されればと考えられるが、熊野町萩原の歴史を伝承するよう配慮したモダンな施設となっていることが地域の施設として建築文化賞に値する。

生きた建築の文化価値を再発見する時代へモダニズム建築を地域資源として育てていく時代のために建築文化をもう少し広い概念で捉え、同時に地域の経済活性化に取り組むことが重要と考える。

【入選】 CHRONOS DWELL（一般建築部門）

〔施設概要〕

- 建設地：広島市安佐南区大町東
- 用途：長屋
- 構造規模：木造2階建て
- 延床面積：1,092.07 m²
- 建築主：個人
- 設計者：藤森雅彦一級建築士事務所
- 施工者：積和建設中国(株)



撮影者：小川重雄

【推薦理由】

日本における都市の庶民のための木造集合住宅は江戸時代の棟割長屋に原型を求めることができ、庶民の生活文化を形成してきたが、戦後近畿地方で木造モルタルの台所と便所を各住戸にもつものを文化住宅と呼ぶほど、日本の木造賃貸集合住宅は貧しいものであった。

この集合住宅は街区構成の中に立体的路地的構成と木造2階建ての立体構成を組み立てることで、従来の一住棟が独立して並ぶだけの集合住宅に新しい街区空間性を作っている。銀色の鋼板によって覆われた家型の組み立ての中の複雑なメゾネットの住居はこの住居者に現代的な生活感性によるコミュニティを作ることが、現代の木造賃貸住宅の集合としての評価すべき特色である。

【入選】 真行寺本堂（一般建築部門）

〔施設概要〕

- 建設地：広島市中区寺町
- 用途：寺院
- 構造規模：RC造一部S造4階建て
- 延床面積：917.22 m²
- 建築主：宗教法人真行寺
- 設計者：(有)立石建築設計
- 施工者：(株)砂原組



撮影者：野村和慎

【推薦理由】

寺院の建ち並ぶ街区の中で、この仏教寺院は鉄筋コンクリートによる複数のスラブが積層するモダニズムの原型を基本にしながら日本における現代の仏教寺院としての儀式空間だけでなく檀家のサロンとしての機能を様々に内部空間に内包している。宗教を通じたコミュニケーション建築という現代の宗教文化空間の複合した試みである。

仏教の伝統、近代技術による建築構造、日本の文化的伝統、現代のコミュニケーション空間のデザインなど矛盾する様々な建築的問題を一元的に統一することをせず、多様な材料も一元的に統一することをせず、しかし一つの宗教施設としての全体性の有り様を建築において成立させる近代以降の建築文化の難問への試みである。

【入選】 海風の家（住宅部門）

〔施設概要〕

- 建設地： 廿日市市宮島口
- 用途： 店舗併用住宅
- 構造規模： 木造 2 階建て
- 延床面積： 127.92 m²
- 建築主： 個人
- 設計者： (株)プレゼントデザイン
一級建築士事務所
- 施工者： (株)小松工務店



撮影者：花田憲一

【推薦理由】

宮島を対岸に望む傾斜地に建つ店舗付き住宅である。

隣地は、建築を諦めてソーラーパネルを配置しているという場所であり、厳しい敷地条件と格闘の末、職場と住居を獲得している。敷地の最下部に高さ 5m の擁壁があり、地耐力が信用できないため安全性を考慮し支持杭を打ち、RC ラーメン構造の基礎を接続して、その上に木造 2 階建てを載せている。

道路からのファサードは、向かいの住宅の石垣の高さに合わせて 1 層分のヴォリュームに抑えている。中央の階段を下りると、視界を遮る壁に突き当たるのが少し残念ではあるが、海が見渡せるデッキテラスに行き着く。階段を挟んで東半分が美容院、西半分が住宅である。

まだ小さい子どもがいるため、手すりなどに少し危険を感じる部分もあったが、住人のセンスが活かされた空間は、コンパクトにまとまっている。今後、子どもの成長と共に、住み方が変わっていくであろう家族のライフスタイルに、空間がどのように対応していけるのかが問われる。

【現地審査】



【第2回審査会】



《第10回ひろしま建築文化賞 総評》

「小さな建物が示す広島のことからの建築文化の可能性」

ひろしま建築文化賞を応募作品のなかから選ぶにあたり、ことからの広島での建築文化とはいかなるものであるのかということを審査委員会の委員で確認しながらの選定であった。

広島で活動する建築士事務所が提示したことからの建築文化を示す建築作品を見つけてゆくということになった。

地方の建築文化はモダニゼーションという世界中を一つの論理体系（経済のシステムと普遍的論理）がグローバルに展開する21世紀初頭にどのような事柄として広島という地域で可能なのかということであるが、1970年代以降のポストモダンといわれた時代に、歴史性と地域性を軸に展開したモダニズム批判が結局まがい物でしかない歴史の記号と地域の記号を近代的な建築構造物の表面に貼り付けることしかできなかった問題の先に見える物を見つけるということになる。

地方創生ということがいわれているが、東京への一極集中による地方の人口減少、高齢化、少子化と地方の未来は未だに見えない。近年、地方が特例の債務をして建設される大きな建物によって地域を再生しようとするものが見られるが本当に再生は可能なのだろうか。本年度の建築文化賞の建物は小さな建物がほとんどであったことには大きな意味がある。小さな建物が建築文化として丁寧にこれから作られて行くことにこそ、地方の未来の豊かさとしての広島の建築文化があるのではないかということが見えたことである。



審査委員長 岡河 貢

2つの住宅は広島という斜面地における小さな敷地における住まう文化、木造集合住宅は街区のなかに新しい路地性と住まいの組み立てを示す集住の文化、地方大学における学生の多様な賑わいの場を木造でつくる広島のことからの教育文化、観光地のトイレにおける広島のもてなしの文化、地域での設計のための小さな仕事場文化、檀家と寺院のコミュニケーションの新しい文化、古い建物を小さな改装で地域の生活に新しい潤いのカフェ文化、これらは広島のことからの建築文化の可能性を示している。地方創生ということが言われているが小さな建築における丁寧な作り方の集まりが地域の未来の建築文化をこれから創造することが期待される。